

令和5年度第2回鹿児島県周産期医療協議会 議事概要

1 日時

令和5年11月6日（月）18時30分～20時10分

2 場所

ホテルウェルビュー鹿児島 潮騒

3 出席委員（順不同）

池田会長，湯浅委員，榎園委員，八田委員，伊地知委員，小田原委員，濱田委員（代理），岡本委員，上塘委員，徳久委員，上村委員，八板委員，松下委員，長島委員，松岡委員，房村委員，岩田委員

（20名中17名出席）

4 議事

（1）第8次鹿児島県保健医療計画（素案）について

① 周産期医療

【主な御意見等】

- ・ 今後，院内助産や助産師外来を推進していくためには，専門的なスキルを持った助産師が必要となることから，アドバンス助産師の数を県計に加え，医療圏毎の人数も指標として掲載いただきたい。
[八田委員]
- ・ NICU等の長期入院児の退院後の支援を充実させる観点から，退院後の状況（在宅，転院等の内訳）を掲載いただきたい。
[八田委員]
- ・ 在宅の家族支援に係る記載も検討願いたい。[池田会長]
- ・ 地域における周産期・小児医療の在り方や存続に向けた方策について，それぞれの地域で派遣元である大学病院等も交えて協議する場を早急に設けるべきではないか。[池田会長]

② 小児医療

【主な御意見等】

- ・ 小児救急電話相談#8000の相談件数の推移と，県内の訪問看護事業所のうち小児に対応している事業所数，災害時小児周産期リエゾンの人数を，指標として掲載いただきたい。[八田委員]
- ・ #8000の認知度を上げるために，広報活動に力をいれてほしい。[池田会長]

③ 数値目標

- ・ 特に修正意見はなし

(2) 鹿児島県医師確保計画（素案）について

【主な御意見等】

- ・ 「グループ診療体制の構築に向けた検討を進めます。」といった表現を「体制の構築を進めます」といったように踏み込んだ書きぶりに修正できないものか。[上塘委員]
- ・ 産科医・小児科医の確保については喫緊の課題。危機感を計画に反映させないと、本県の医療提供体制は守れないのではと考える。

[池田会長]

(3) その他

【主な御意見等】

- ・ 周産期母子医療センター以外の診療所及び産科病院が、本県の分娩取扱の85%を担っている状況。もしもそこが分娩の取扱を止めるとなると、ハイリスクではない普通分娩も周産期母子医療センターにお願いすることになる。そういった事態を避けるためにも早急に対策を講じるべきと考える。特に、川薩地域と大隅地域。[榎園委員]
- ・ ドクターヘリの夜間搬送について、市長会及び町村会から県宛て、全国離島振興協議会から国宛てに、要望書を提出予定。[八板委員]
- ・ 産科・小児科医の確保や、産科・小児科の医療機関の減少が喫緊の課題であることは協議会としての共通認識ではないのか。ワーキンググループを設置して具体的な話を進めながら、できることとできないことを洗い出すだけでも全然違ってくると思う。現素案は机上の空論になっている気がするので、是非検討願いたい。[徳久委員]
- ・ 様々な施策が掲載されているが、その成果をイメージしやすいのは数値化することだと思う。具体的な数値目標、その目標に近づくための取組と取り組んだ成果が反映された数値、そういったものを掲載してはどうか。そうすることで、計画に関係するステークホルダーのモチベーションにも繋がると考える。[上村委員]
- ・ 計画というものは実際ワークする内容でなければ意味が無い。県だけでできることではない。御出席いただいている関係機関の協力なしには実現は困難。引き続き協力をお願いしたい。[房村委員]
- ・ 子ども・子育て支援について、行政のスピード感がないところが気になっている。鹿児島県で産み育てたいと考えるお父さんお母さん達をバックアップできるような施策をスピード感を持って推進して下さるようお願いしたい。[上塘委員]